

道教組

DOKYOSO NEWS VL.578

教職員とその家族を守る
全教自動車保険

5つの特徴

- ① 無事故割引を引き継ぎます
- ② 団体扱い割引を10%に拡大
- ③ 家族の車もまとめるとさらに割引
- ④ 退職者もメリット引継ぎで安心
- ⑤ 申込んだその日から安心

有限会社 川上企画 (道教組指定代理店)

札幌市中央区大通西12丁目4-78

TEL:0120-222-789 FAX:011-218-2472

2021年9月24日

道教組第34回中央委員会開催

コロナ禍の中、道教組は、9月11日にオンラインで、第34回中央委員会を開催しました。その様子をお知らせします。

中村執行委員長 開会あいさつ(要旨)

新型コロナウイルスパンデミックによる「新しい生活様式」といわれる生活のもとで、子どもたちは2回目の夏を終えました。仲間とふれあうという重要な活動が制限される生活の中で、子どもたちの成長・発達をどう保障するかが私たちに問われています。コロナ禍だからこそ、子どもの実態をふまえた柔軟で自主的な教育課程づくりが求められることでしょう。また、それを実現する取組を保護者や地域とともに共同の力を得て進めていくことも求められています。

道教組は、「GIGA スクール」の学習会をこれまで重ねて行ってきました。その中で、「教育ICT化」は、現

場でのいろいろな混乱が出されました。機器の操作の不慣れ、子どもの心身に及ぼす影響、使用するルールの不十分さ、教育内容・指導方法の画一化、通信環境等にかかわる経済的格差など、山積する課題がまだ、十分に議論されないままに推進されています。子どもたちを大切にしたい方々を是非、今後も論議し運動を進めましょう。

最後に、菅政権退陣にかかわり、新自由主義的政治からの転換をめざして、子どもたちを守る・よりよい教育にしていこうと取り組みを強化していきましょう。同時に、私たち自身の生活と健康を守る闘いをすすめていきたいと思います。



中央委員の討論より(要旨)

◆千種一郎(網走) 今年は教職員の健康診断で3割も2次検診対象者になりました。コロナ禍でストレスを抱えている教職員が増えているのではないかと思います。道教組が教職員の応援団になれるようなとりくみが求められていると思います。

◆大島信子(空知) ZoomとMeetの講習後、生徒に持ち帰らせていた矢先、コロナ感染の生徒と教師が出て学校閉鎖になりました。即刻、朝の会で活用し、生徒の安否確認ができて良かったです。使える物は活用したほうが良いと思います。

◆園田純一(根室) コロナ禍で修学旅行の生徒分は市がキャンセル料を負担します。しかし、教職員分は保障がなく、組合が教育委員会に申し入れを行い、解決。別海町では、タブレットを使う回線が光回線ではなくADSLでまだ環境が整っていません。

特別発言

◆海老名潮美(共済会) 12月まで総合共済のキャンペーンが続きますのでお願いいたします。自動車保険の組合員加入率は36%と低い状況ですので、是非加入を検討してください。9月から12月まで月1回「オンライン相談会」を予定していますので、気軽にご参加ください。

◆谷光(北海道子どもセンター) 今大切なことは、子どもたちの声を聞く、仲間たちの声を聞くことです。子どもセンターは、9月に学童保育指導員を通して子どもたちの本音を聞きます。同僚・管理職・保護者の声を聞き、職場づくりの柱にしていきたい。

◆吉田桂子（札幌）小さい組織ですがコロナ関連で市教委要請ができました。中学校でタブレットの持ち帰りをしていますが、保護者に破損時の同意書を書いてもらいます。各学校教員2名割り当てのオンライン研修会があり、結構大変でした。

◆間山純子（後志）子どもの心にコロナの不安が広がっています。心のイメージマップを描かせると、不安やいやな気持ちをダークな色で描くことが多い。ていねいに子どもと話しなると心の状況は見えます。子どもに心響く学校行事が大事です。

◆釜薙圭（釧路）1年単位の変形労働制に、校長会は迷惑だと。全釧路として短い春休みを延ばすことで新学期の準備がしっかりできることを提案し、校長会は前向きにとらえています。女性部アンケートでも6割の賛同を得ました。

◆古川和義（胆振）複数年のGIGスクール整備が1年に縮まり、苫小牧市教委も大変だったそうです。変形労働時間制は今のところ導入の予定はないと確認できました。超勤解消には中学校では部活動が課題で、指導員が配置されています。

◆新田智子（渡島）超勤は少し改善されましたが、問題としては、7時45分勤務始まり、18時半勤務終了となっていて、タイムカードを押してからまた仕事をするケースがあります。働き方実態アンケートで実態を明らかにしたいです。

◆佐々木貴（宗谷）昨年から声かけていた新採2年目の先生が加入してくれました。あまりしつこくならない程度に声かけし、オンライン学習会にも参加してもらいました。やはり、継続した声かけと、話し合う時間づくりが大切です。

◆白山尚（檜山）今年度の組合員は、5名減で始まり2名加入し、後3名で回復です。各支部に組織担当者を置き、書記長と連絡を密にとっています。春に山根先生の感染症の実践から授業づくりの視点を学びました。今後も教研活動を頑張ります。

◆中村徹（上川）中村美奈子さんの共済加入拡大が12名になり、「増やす人を増やす」とりくみがすばらしく、このとりくみに学びたいです。夏に特別支援関係の学習会を行い、留萌管内の先生も参加していただき、今後の加入につながればと思います。

◆坂野郁雄（石狩）コロナ禍で集まるのが困難になっています。礼文の時は、「若者の集い」でパワーをもらいました。石狩でも「釣り大会」を企画し、たくさん参加していただきました。顔を合わせ一緒にいる時間が大事なんだと思っています。

◆松岡優徳（十勝）今年から帯広市で小学校理科専科の再任用をしています。都市部の勤務は初めてで、子育て世代の先生方が勤務終了とともに帰りますので、これが普通の働き方なんだと思います。小学校は専科授業をも入れるべきです。

◆遠藤美由紀（女性部）5月にリモートで総会を行い、各地の交流と「男性にも育児休暇を」という講演を聞き学習しました。8月に北海道・東北ブロックの学習会、9月は北海道、10月は全国の集会が予定されています。

◆和田千鶴子（養教部）コロナ禍で日々緊張して保健室運営を行っていています。コロナにより保健室入室が増え、登校渋りや視力低下が増えていきます。抗原検査簡易キットは数が少なく、防護の装備もない中で養教が検査するのは不安です。

◆永島敦史（事務職員部）コロナやワクチン副反応の災害事故休暇の対応が混乱しています。市町村の学校管理規則が古いため、休暇制度がまちまちです。道から研修を職場で行うようにとの指示があります。それなら研修用のパソコンを支給すべきではないかと考えます。

◆田中豊一（障教部）5月に高教組と共催で「はるがく」を開催し、2桁参加がありました。コロナ禍でもリモートで高教組と連携しています。設置基準を求める署名等で文科省も動き始めています。1月の「障害児フォーラム」にご参加ください。

◆富樫耀（青年部）「紙上発言」高教組・道教組その連携を密にし、学校種を超えてつながりたいです。11月の学習会に集い、つながりをつくり、悩みを語り合うなど、組合の良さを感じていければと思います。

※討論の後、川村書記

長から討論のまとめがあり、早矢仕（宗谷）釜薙（釧路）両議長の進行で、議案は全会一致で採択されました。その後、中央委員会アピールも採択され閉会となりました。

